

会議結果まとめ

京丹波町住民自治組織によるまちづくり検討委員会 第11回会議

日時 平成19年9月20日午後7時30分
場所 和知支所2階会議室
出席者 13名（欠席2名）

1 開会

2 あいさつ

委員長… 3グループで進めてきた協議も本日で終了できるものと考えている。次回に、今までの協議を踏まえて修正を加えた最終の報告（案）を提示し最終の協議ができると考えている。

本日は、資料のとおり、第4章まとめの部分に修正を加えているので協議をお願いしたい。

行政改革推進委員会が8月29日に発足した。委員として私も関わることとなった。協働のまちづくりを進めていく上で、本委員会とも関連するものであるので、ここでの検討の内容も反映できればと考えている。

3 議題

（1）グループ別協議

事務局……第4章のまとめについては、従来は「組織化に向けて」と「協働のまちづくりに向けて」という内容で構成していたが、第2章の結論部分と重複する部分があったため、整理し、検討委員会での検討経過を踏まえたまとめとした。今回提示した内容により検討いただきたい。

住民自治組織によるまちづくりのあり方（案）を基に検討を行う。

※報告書（案）第3章 住民自治組織の項目以降について検討を行う。

※3グループに分かれて検討を行う。

※今回でグループ協議終了。

詳細は別紙のとおり

（2）全体協議

《協議事項》

①仮定エリアの取扱いについて

事務局……第2回会議において、各委員が地元区域に組織化をイメージした中で検討することがより具体的に議論できるということもあり、住民自治組織が組織されていない地域について仮定エリアを協議した経過がある。

このエリア設定については、委員会での協議を行う上でも重要な事項となっていることを踏まえ、報告書に記載すべきかどうか協議願いたい。

委員……検討委員会で最も重要な課題は組織の範囲の設定であろうと思う。この報告書を提出してもこれをもとに地域で議論するとしても、具体的な投げかけ

る部分がないと地域での議論が困難ではないか。地域のこれからを描いていく上で、このエリア設定という一つの地域への投げかけは重要である。

委 員……本文には記載せず参考資料としてのみ記載することとなったとしても、地域で議論する一つの資料となるのではないか。

委 員……一定のエリアを定めるということについての議論はまだまだ少なかったのではないか。丹波地区で考えると仮定したエリアはなかなか難しい面もある。エリアについては、実際には地域が考え決定するものであるので、地域の議論の中で小さい範囲からエリアを検討していくべきではないか。

委 員……このエリア設定が実際に困難で問題があったとしても、それをきっかけに地域で議論されるということが重要なのではないか。

委 員……集落別の高齢化率を示した図については、非常に参考になるものである。別表で旧町ごとの年齢別人口も出ているが、今、検討しているエリアごとの年代別の構成グラフ図を示すことも重要である。

委 員……旧須知小学校のエリアでの活動として、現在、敬老会を実施している。人口規模など様々であるが、一つの地域への投げかけとして報告書に示してほしい。

委 員……丹波地区のエリアについては、地域の歴史や地形などをあまり加味せず、旧小学校区域ということで設定したものであるので、エリア設定を地域に投げかけたとしても、実際には地域で検討されるものである。

委 員……エリア設定については、様々な検討を踏まえて定めたものであるということを記載する必要があるし、この限りではないということも記載する必要がある。

委 員 長……現在の協議は、地域で検討する材料となるものであるので、検討委員会の検討結果として掲載するということですか。

事務局……エリア設定については、参考資料としてでも記載してはどうかというご意見もいただいたが、参考資料であってもその意味を本文中に記載する必要があると思われる。

本文中に記載することとし、その文章の中で設定の経過とこのことにより地域での議論を期待する旨を記載するという内容とするということでいかがか。

委 員 長……エリア設定については重要な事項である。本文に記載するということで次回、案を提示するということで確認したい。

委 員……集落別高齢化率の図と集落別人口は参考になる資料であるが、資料として一本化するほうがより比較できて見やすいのではないか。

事務局……内容について検討し、次回お示ししたい。

②その他

委 員 長……今回で、3グループで行ってきた検討も一通り終了した。この検討を踏まえ、次回には最終報告案を提示したいと考えている。今日は、時間がないの

で、修正箇所については具体的に次回提示したい。

4 その他

5 閉会

副委員長……議論も大詰めを迎えてきた。11月を目途に報告書を提出したいと考えているのでよろしくお願ひしたい。

次回会議

開催日：10月18日（木）午後7時30分から

会 場：瑞穂支所会議室

第11回会議 グループ別協議 まとめ

日時 平成19年9月20日（木）午後7時30分

場所 和知支所

第1グループ

委 員：太田委員、白樺委員、西田委員、山内公夫委員

事務局：田端、片山 (計6名)

- 現在の地域の状態が良好かどうかの判断は難しい。それぞれ問題点がある。
- 組織のないところは大きな力を注がないと難しい。
- 組織のあるところも盛り上がりが難しく、役員任せになるなどどちらにも課題がある。
- 既存組織の活性化、更なる充実、発展に向けて組織があるところについても記述が必要では？
- 「5年以内には」という記述について、3年にしてはどうか。
- 「地域によって状況が違う」という記述を「地域の状況や課題が異なる」に変更してはどうか。
- 「グループワーク形式」という記述を「グループに分けて検討」に変更してはどうか。

第2グループ

委 員：上田委員、上林委員、小森委員、野間委員、山西委員

事務局：久木、小谷 (計7名)

- 行政におんぶにだっこになってはいけない。集落ごとに課題が違うのでなかなか難しいので、町職員に立ち上げの時にどっぷり関わってほしい。パソコン、会議のまとめ等事務的な経験がないと難しいので、その地域の職員にお手伝いしてもらいたい。
- 丹波地域は組織がないので、行政が積極的に住民に訴えて組織作りをしてもらいたい。
- 竹野地域はうまくできそうだが高原地域は困難な部分もある。
- ある程度行政が引っ張って行ってほしい。
- 行政主導ではなく、あくまで住民が主体である。
- 一律の支援（お金）も必要だが、地域が考えて行ってたらん分を支援してもらっては。
- 立ち上げを支援すると言うことは、ばらまきではないか。
- いろんな組織に行政が呼びかけてほしい。
- 最初に立ち上げたグループの動き方が重要である。
- 地域によって課題等違うので、支援のあり方を決めてしまうことは、いかがなものか。
- 役場に支援窓口が必要である。

第3グループ

委 員：山内委員、堀林委員、和田委員、吉田委員長

事務局：(岩崎和知支所長)、野村、小原 (計 7名)

- 目的の部分が抜け落ちていたり、ぼやけたようなところがあったので、強調していく必要がある。
- 目標値を5年以内と定め、ある一定の全地域に浸透する意味でも、5年を設定するほうがよい(10年となると間延びしてしまう)。
- 地域格差がある中で、地域では取組みの進み具合がまちまちになるが、目標年次は10年では長いように思う。5年でなくても、平成何年というようにしてもよいのでは。
- 目標年数をおくのは良いが、その間の行政等のバックアップ体制も必要となり、ある程度は行政が指導等をしていく必要がある。
- 基本構想(総合計画)とのからみもあり、そのつながりからも目標年数が大事である。
- ブロック別の人口としてどれぐらいがベターであるか、どれぐらいが地域全体にいきわたり活動できるか、歴史的経過や交流形態など検討して設定する必要がある。
- 集落の大型化やエリア拡大により、住民から負担などの点で誤解を招かないように説明する必要がある。
- エリア設定で、丹波地区についてはまとまりやつながりそれに、歴史的背景などから現在案については難しい。
- エリア設定については、特に丹波・和知地区についてはこちらで示すのは難しいところがあるが、あくまでも案として参考に掲載して提示し、地域に投げかける方向でよいと思う。
- 人口の多い集落においても様々な問題がある。振興会づくりということが地域で話し合うきっかけになれば。
- 既存組織のある地域も、地域全体で取り組める環境づくりが今後必要となってくる。

住民自治組織によるまちづくりのあり方について 報告(案)

— 目 次 —

第1章 はじめに

- 1 時代背景
- 2 地域等を取り巻く現状と課題

第2章 今後のまちづくり

- 1 住民主体の地域づくり
- 2 住民自治組織によるまちづくりの意義と目的
 - (1)住民自治の確立
 - (2)個性豊かな地域づくり
 - (3)既存組織の連携により地域力を高める
 - (4)広域的な地域づくり
 - (5)町民と行政による協働のまちづくり
- 3 協働のまちづくりへ

第3章 住民自治組織

京丹波町における組織のあり方

- (1)役割の明確化
- (2)既存組織(地域振興組織)
- (3)組織の範囲(区域)
- (4)組織体制
- (5)自主財源の確保
- (6)支援のあり方
- (7)各種団体との連携

第4章 おわりに

まとめ

- 参考資料